時事新報

銀行者

經財社會近頃の風說に大藏省にては銀行條例中現時に不適當なる條目あるを以て之を改正するの見込なりと云ふ本邦銀行創設以來、年を閲すること十餘年、其間種々の經驗に徴して利弊の所在、自ら分明なる者もあらんなれば時に及んで之を改正するは實に當局者の義務なる可し我輩曾て北米合衆國の商政を按ずるに同國にては銀行を以て成る可く安全堅固にして金融上信用の源泉たらしめんとし五名以上の組合あれば之を國立銀行として政府管理の下に置き此外州立の銀行はわれども私立銀行と稱す可きものなく銀行事業は政府の檢査取締の行き屆きたるは勿論、所謂國立銀行も土地人口の多寡に制合はして成る可く小資本の者を許さゝる其次第は資本少なければ頭取以下行員の給料賞與金等總べて少額なるが故に人情之を多くせんとして金の運操りを烈くし甚だしきは投機流の危險を踏んで往々弊害を生じ易きが爲めなりと云ふ然るに我が日本國にては政府檢査の行き屆かざる私立銀行の數多あるのみかは僅々五六萬圓の資本にして國立銀行の部類に入り獨立に門戸を張る者もあり此等は我輩の眼より見て利弊如何と疑はるゝ其一端たるに過ぎざれども多年其局面に當りて事細かに實驗を經たる者は條例面の改正に就ても種々精密の考案あるとならん我輩は我が經財社會の爲めに祈りて偏に其改正の有効ならんことを希望する者なり然りと雖ども一歩を進めて考ふるに條例面の改正は外形大體を制規する迄の事にして銀行內部の細事情は唯銀行者其人の手加減に任ずるの外なきが故に銀行者が自から奮起して其本分を守るに非ざれば條例の改正も遂に儀式上に止まりて實際ろの功を奏すること甚だ六ケ敷かる可し抑も西洋商賈國にて手形取引の盛大なるは商賈社會人々の信用頗る堅固なるが爲めならんと雖も一方には世人が銀行者を信じて商德圓滿、信用無疆、金融上の生佛なりと見做すが故に上は王公大臣より下は裏店の住人に至るまで各々銀行との取引を開きて有金は總べて之に預け彼の國の習慣として當座預金に利子を拂はず之を拂ふも年二朱以上に上るみとあきにも拘はらず自家の鬼箱を銀行に移して手許に錢金を留めざるは銀行を以て無上安全と信ずるが故なり斯くて何か仕拂あれば其取引銀行渡りの手形若くは小切手を渡し他より手形小切手を受取れば之を其取引銀行に送りて自家預金の中に加へ三圓五圓の勘定にも惜ぬ手形小切手を用ふるが故に正金の授受は少なくして手形の融通非常に盛んに商賈取引上萬端便利なるとあれ共撰して其源を究ひるときは銀行者の信用厚くして世人が之を金融上の生佛として崇信するが爲めなりと云ふて可ならん然るに我國の銀行者は其商德の圓滿なる其信用の無量なる金融上の生佛として世に崇信せらるゝ者多きや少なきやと考れば我輩は先づ以て多から ず と答へざるを得ず試に今の諸銀行の幹部に入て如何に其資本を使用し居るやを吟味したらば銀行重役若くは重立たる株主が明瞭簿の間に借用人と爲りて自から其資本を使用し銀行本色の仕事に對しては却て不手廻なるものも多きが如し又或る銀行者の中には商工諸々の會社に手を出し個々數萬圓の身代を人が先づ甲の會社株を買ひ之を株當に金を借りて更に乙の會社株を買ひ乙丙丁戊の順序此くの如くにして數十萬圓の株券を所持し其株券の相場に幾割幾分の浮沈あれば銀行重役の身代は有無の間に出沒して水上の漚に類するものもなきに非ず銀行者の私と銀行業の公とは固より混ず可らずとは申しながら其當局者の身代行狀を見て其銀行に對する信用を增減するは即ち勢の自然にして銀行者の擧止進退長く今日の如くあらんには世人をして厚く銀行を信せしめ自家の金庫を銀行に移して安んじて之を依托せしむ可しとも思はれず斯かる事の次第に世人が銀行を信ずること厚からざれば人々其金を自家に藏め置き日常の諸拂勘定は勿論、商賈上の取引に至るまで手許の正金を出納して手形の融通廣からず延て商賈上萬端の不便と爲りて兎角その規模を大にするみと能はざるは祖先以來我が商業社會の風習とは申すも今日我國に於て金融社會の急要務は彼の銀行條例を始め時に適せざる諸規則を改めて成る可く商賈變を保つと同時に金融社會の要衝に當りて具眼の地に居る銀行者が固く其本分を守りて投機流の事業を忌み嫌ひ恰も高德の僧正が女色葷酒を近つけざるが如くし商界公衆の前に於て我れみな眞に清淨潔白、慶さ銀行者に非ずとして其商德の圓滿なるを示し世人をして一般に自分を崇信せしむるの一事に在る可し斯く世人が實狀に徹して厚く銀行者を信任し金融上の生佛として遂も疑念を挾まざるに至らば金利の高き我國の事として當座預けにも四朱餘の利子を拂ふ可し尚も金錢上の考あらんものは誰か隨喜の涙を流して其預金を携へて金融の本山たる銀行に賽せざる者あらんや左れば今日金融の必迫、銀行に借る者多くして預くる者は殆んど皆無なりとて苦情は區々なれども我輩は此金融必迫に附けても銀行者が自から其本に反りて大に省みする所あらんと偏に希望に堪へざるなり

雜報

○大藏省の免非沙汰　大藏省にては去る四日金庫局詰屬官三十餘名へ非職を命じたる由兎其他の各局屬官及び傭員にて非免の處分あるべき者は去る二日迄に局長より次官の許へ差出置きたれば松方大臣の歸京後官制の發布と共に施行する筈にて右書類は目下秘書官の手許にある由なり

○內務省土木局の臨時建築掛　臨時建築局は過般廢されて內務土木局中に臨時建築掛を置き永田町なる舊同局を同掛所とし目下前掛官出頭して日々職務を取扱ひ居る由なるが書局より同掛に判命せしは高等官には一人もなく判任官に五名あり其同掛會計主務官は土木局會計課長鳳川敬助氏なりと云ふ

○辻文部次官の演說　岐阜縣常師範學校長福島喜平氏外數員諸氏は同校生徒七十名を率ゐて內國勸業博覽會及各學校工場等の實況巡觀として上京せしが一昨五日午前十時跳れも文部省へ出頭し午上會議所に於て辻文部次官は右生徒に對し一場の演說を爲したるよし

○衆議員選擧費用　神奈川縣會に於て議決せし各選擧區の衆議院議員選擧費の總額は五百六十六圓六十五錢三厘なるが之れを各區に區別せば左の如しと

第一區	六圓三錢四厘
第二區	九十二圓七十三錢九厘
第三區	百三十七圓九十六錢七厘
第四區	七十一圓二十二錢三厘
第五區	百一十七圓七十四錢五厘
第六區	百五十六圓九十七錢
橫浜市	
橫須賀市	
鶴見郡	
都筑郡	
南多摩郡	
都筑郡	
愛甲郡	
足柄郡	

○華族の逝去　從四位伯爵室町公廣氏は病氣の處治療層かゝず去る四日逝去したりと

○勝軍堂取壞　馬場先門なる舊元老院跡には目下宮內省の圖書寮、諸陵寮、帝室會計審査取調掛、帝室制度取調掛を移して事務を扱はしめ居れるが右諸所を除くの外醫事堂其他の建物は一昨五日より夫々取壞しに着手したりと

○西藏事件落着す　先年西藏と印度の境界問題に關し英國政府の委員と清國政府の委員との間に談判を開きたれども久しく決定せざりしが此頃に至りて談判漸く纏まり兩國の委員は三月十七日カルコッタ府に於て條約書に調印したるよし

○空砲發火演習　近衛工兵中隊新兵は來る九日頃北豐島郡板橋町近傍に於て空砲發火演習を執行するよし

○醫術開業試驗　來る十日午前八時より芝區濱宮町二丁目十三番地醫術開業試驗場に於て第一回東京醫術開業試驗を執行する筈にて今回の受驗者は前期千五百五十七人後期千二百六十四人齒科九十二人なり斯く受驗人の多數あるを以て本年は之を三回に分ち其第一回は來る十日より第二回は五月十日より第三回は六月十日より執行し右三回共學術試驗を八日間と定め夫より實地臨床試驗を執行するといふ

○藥劑師の數　目下全國藥劑師の數は二千五百七十三人なりと云ふ

○官舍取拂　神奈川縣廳にては今回內田町內に設置せる官舍を悉皆取拂ふ事に內決せし由なるが右は多分鶴港川に就てならんといふ

○橫濱市會の出願許可無るべし　橫濱市會にて義に出願したる彼の高島町海面埋立拂下の件は其筋にて目下調査中なるが多分許可の沙汰はあかるべしと云ふ

○米商の義金　東京米商會所役員の有志鶴岡忠藏、加藤左馬治、谷崎久兵衛、吉野甚三郎、渡邊勘三郎の五氏發起となり目今米價騰貴に際し貧困に苦しむ者の情を察し有志者と謀り此際醵金して貧民に惠與せんと左の趣文を仲實一般其他同商に關係せる有志者に配たりと金壹拾圓の內に越風し珍膳佳肴に飽く富貴家あるに引替て往々各新聞紙上に散見する寡婦孤子癈疾者其他疾病に苦ひ貧困者等の內實に憐びべき事情より不幸の極點に陷り加之今米價の騰貴に付其日の糊口に困難ある狀態は聞くだにも痛へ粟を生じ眞に哀憐に堪へざる窮民に多少の救恤をなし卿か同胞の情誼を表せんと欲し有志相談の上何分の醵金をなし貴き前文の如き者見當りの節は有志一同の名義を以て授與することとなし其授與の手數等は各新聞社に托する積りに有之候て明後每月相當の積立金を相定め授與致し度御同意御賛成あらんことを請ふ

○九州鐵道の線路中昨年十月より工事に着手したる博多より建復郡黑崎迄二十七哩の間は來る八月迄に竣工し翌九月より開始する趣あるが同所鳴瀨の畔には黑崎より小倉迄三里其れより馬關迄海上僅に三里餘なれは是迄玄海灘を航海し來りたる旅客の爲めには餘程の便利なるべしと

○九州鐵道の收入金　九州鐵道會社博多久留米間三月中の營業收入總額は八千九百九十二圓七十一錢にして一日平均二百九十圓九錢一厘に付一日十二圓八十九錢

○清國の大鐵道に就て　著て其筋高あり し清國北京漢口間大鐵道の象殿工事は及び北京の官吏社會に達し工事に着手する筈にて資金を川憲し潮北の礦漢口の方より着手する趣

○會の事務局、事務所、出品　京橋區

○電話機の出品　京橋區

○手形交換高　東京手形交換所より一昨五日に至る一週間の總額は十二萬四千六百七十四圓八百三十枚あり

○香烟雲を爲す　武治の

在りては士伍に列するこ

しとあく近世復讐怪

居たれば當時諸藩の士

赤穂の遺臣四十六士が

火を供するの習慣を爲

在りて其實跡を知らざ

本を持て囃さるゝ忠臣

持仲間に屬れ或は江

亦判官傑の墓を拜す

士の墓前に香烟雲を爲

昭あかりしも物換り星

墓にあらざるも莓苔掃

頗る蕭條たりしに本年

上り來る十一日より同

なり既に其準備も整ひ

京よ來りたるものは名

前なれど博覽會見物に

け香烟墓前に繁りて奮

は亦格別なるべしと

廣告